

平成 28 年度 奈良県立二階堂高等学校 学校評価総括表

No. 1

教育方針		「磨き合い 共に輝け 二階堂」をスローガンに、「キャリアデザイン科」の特色を生かし、社会の中で自らが果たす役割や生き方を見つけ、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指したキャリア教育を推進する。					総合評価
平成27年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標			B
27 年度入学生からキャリアデザイン科に改編され、インターシップ等の取組をはじめとしてキャリア教育の充実が見られた。また先生方の粘り強い指導もあり、問題行動による指導件数、転退学者ともに大きく減少している。今後は、学習指導、生活指導をはじめとして、すべての教育活動において社会人基礎力の育成を中心としたキャリア教育に、全員で取り組んでいく。	(1)キャリアデザイン科の特色を生かした教育の実践	①普通科最後の卒業生の進路実現にむけ、指導体制の充実。 ②学力の向上(活力ある授業・BUTによる基礎学力の充実・積極的な資格、検定の取得)。 ③一人一人の個性と能力、可能性を引き出す、魅力ある教育課程の編成。 ④「産業社会と人間」、「かがやき(課題研究)」による、キャリアプランニング能力の育成。 ⑤進路説明会や系列選択ガイダンス、進路面談等により、進路選択のミスマッチを防ぐ。					
	(2)社会人としての基礎力を身に付けさせる教育の実践	①ルールやマナーを守り、自らを律し、社会で自立できる生徒の育成。 ②生命と人権を尊重し、自他共に大切にすることをもちった生徒の育成。 ③将来の夢や目標に向かって、忍耐強く頑張る心身をもった生徒の育成。 ④部活動や生徒会活動、学校行事を通して、主体性と協調性をもった生徒の育成。					
	(3)保護者、地域の信頼と期待に応える学校づくり	①ボランティア活動を推進し、地域との連携を図り、地域社会に貢献する。 ②積極的、自主的な清掃活動を通して、公共心や感謝の心を育む。 ③爽やかな挨拶、美しい言葉遣いと身だしなみの指導を徹底する。 ④保護者や地域、中学校に対して、積極的に情報発信と情報公開を行う。					
分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
学習	学力の向上	・BUTの実施により基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。 ・資格・検定の積極的受検により能動的な学習習慣を身につける。		A	・「BUT」は計画通り実施できた。 ・教科担当者間で連携し、授業公開・研修会を実施した。 ・授業評価で「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPA2.88。	分掌・教科の枠を超え連携を密にし、生徒の学力・教員の指導力向上に努める。	受験数の増加だけでなく、合格率の向上もめざしてほしい。
	教科指導力の向上	・授業公開・研修会等の実施により生徒が主体的に学習に取り組む「アクティブラーニング型授業の導入」 ・授業評価で「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPA3.4以上。		B			
生活指導	規範意識の向上	・挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、粘り強く指導をすることによってルールやマナーを守れる素地をつくる。問題行動の昨年度比10%減少とマナーの向上を実現する。		B	・挨拶はできるようになってきたが、十分とはいえない。 ・特別指導は減少したが、訓戒を含めるとまだまだ多い。 ・遅刻は減少傾向にあるが、学年を追って増加している。 ・家庭訪問・学校訪問の実施で家庭の状況、生徒の様子を早めに知ることができた。	生徒指導部会を定期的について、現状把握、課題確認、その対策に努めていく。	問題行動数の減少、事象内容の軽微化など評価できる。遅刻のさらなる減少を期待する。
	基本的生活習慣の確立	・時間を大切にすることを徹底し、けじめある行動を心がけさせ、遅刻を減らす。遅刻の数、昨年度比10%減を目指す。		B			
	生徒理解と家庭との連携	・第1学年において期間を定めて、家庭訪問を実施する。 ・報告・連絡を徹底して、生徒情報の共有化を図る。		A			
情操 指導	読書週間の定着	・『朝の読書』お薦め本のリストを作成し、『朝の読書』を充実させる。 ・図書委員会活動を活発にする。(委員会の定期的な実施)		A	・『朝の読書』のお薦め本リストを作成した。 ・分教室も含め図書委員会の活動を活発にした。 ・勾玉祭で実行委員会の企画をするなど例年よりは生徒による主体的な運営が出来た。 ・クリーンキャンペーンでは美化委員長の放送による呼びかけで啓蒙に努めた。 ・トイレ清掃ボランティア活動年10回以上実施し、参加した延べ生徒数200名を超えた。	実行委員会の構成を変えることによる生徒主体の運営の促進。	昨年度の評価より上昇。とくに学校全体の取り組みとしてのトイレ清掃ボランティアは、是非継続してほしい。
	文化行事の充実	・勾玉祭(文化祭)で生徒による主体的な運営を図る。(実行委員会の50%を生徒主体で行う)		B			
	環境美化意識の向上	・クリーンキャンペーンを通して環境美化の啓発に努める。 ・清掃点検を徹底して一層の美化を推進する。(点検率100%)		B			
	奉仕精神と勤労観の育成	・生徒会のボランティア活動の充実。トイレ清掃ボランティア活動年6回以上の実施と参加延べ生徒数200名以上。 ・各クラス年1回の通学路清掃の実施。		A			
健康 管理	生徒の体力の向上と健康維持	・運動部への加入率をあげ、活動が継続できることを目指す。昨年度比10%増。 ・体育授業での体力作りの種目を計画し運動量を増やす。 ・新体力テストの校内平均を奈良県の平均まで引き上げる。		C	・運動部加入率は低下し、新体力テストの校内平均は県平均を下回っている。授業の体力作りだけでは不十分である。 ・保護者へのアンケートや講演会が未実施。	運動部加入率を上げる取り組みを検討。 保護者に対して、食育の啓発の工夫。	生徒数減も考慮し、部を精選して、少数精鋭を方針にしてもよいのではないのか。
	食育の充実	・生徒及び保護者への講演会やアンケートの実施。 ・保健だより(毎月発行)とアンケート集約の活用。		C			

※ 自己評価結果について … A：十分である(よくできた) B：ほぼ十分である(ほぼできた) C：あまり十分でない(あまりできなかった) D：改善を要する(できなかった)

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果※		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
進路 指導	進路目標の明確化と進路実現	・学校推薦の就職応募者に対し、応募前職場見学の積極的参加を促す。 (参加率 80 %を目標とする。)	A	B	・就職一次希望者の企業見学 100 %を実現した。	キャリアアップ検定を定着させることにより、検定受験者を増加させる。	独自のキャリアアップ検定の有効な運用を期待。
	卒業後に要する知識・技能・態度の育成	・学年や教科、向上委等と連携し、資格・検定の積極的受検を促す。 (受験者数合計 400 人以上を目標とする。)	B		・検定受験者合計 400 人の目標はほぼ達成した。また、進路決定者に対するセミナーの実施など 卒業後を見据えた指導が行えた。		
地域・保護者との連携	学校関係者との連携	・PTA活動への保護者の参加を促進する。(参加者数 10 %増) ・学校評議員からのアドバイスを学校運営に活かす。	B	B	・保護者の参加はほぼ横ばいであった。	ホームページを逐次更新し、キャリアデザイン科の取組を発信していくことが必要	保護者・卒業生もその更新を楽しみにしている。
	学校評価制度の活用と充実	・各種アンケートを実施・分析して学校改善に反映させる。保護者アンケート回収率 90%以上。	B		・回収率は、75.4 %で、1 年生の回収率低下。		
	開かれた学校づくり	・学校ホームページの充実。保護者アンケートにおいて「本校のHPをよく見ている」のGPA2.0 以上。 ・学校開放・地域交流の推進。奈良県教育週間への参加率昨年度比 10%増。	B		・28 年 9 月よりホームページにCMSを導入。更新が容易になり、閲覧者も増加している。		
防災	安全教育・防災体制の充実	・避難訓練の実施と防災教育の充実	B		・例年並みの実施ができた。	関係者への予告連絡	継続取り組みを
人権・特別支援教育	生徒の人権尊重の意識の確立	・社会人としての姿勢を養う人権教育ホームルームの創造を図る。 ・人権系の活動を充実させ、人権尊重の意識を高める。	A	A	・人権諸課題や人権社会構築学習に取り組めた。	生徒の学びを高めるために、教職員研修を拡大充実	来年度は分教室も2学年がそろい、本格的なインクルーシブ教育開始となる。
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	・生徒の様々な悩みを受け止め、子どもたちの自立や社会参加につながる解決策を組織的に考える教育相談・特別支援教育の体制を確立する。高等養護学校分教室の生徒との協働を推進する。	B		・人権作文発表会以外の活動拡大が課題。		
			A		・スクールカウンセラーと支援員が配置され生徒支援が進展し、特別支援の手順も策定。高等養護学校分教室開校に伴う生徒間の協働も実現した。		
国際理解教育	外国人生徒の支援体制の充実	・国際交流研究会の活動を活性化させることで、「帰国生」・渡日生徒を支援し、多文化共生社会に対する意識を高める。	B		・県教委事業で本校生がパネラーを務めるなど、対外的に活動はしたが、校内の外国ルーツの生徒間交流・活動の深化が課題である。	国際交流研究会の活動活性化	さらなる取り組みの準備を期待する。
研究	各種校内研修の実施	・特別支援教育の充実に向け、関係機関との連携を強化し、校内研修会を実施する。一人一人の教育的ニーズの把握に努める。	A		・スクールカウンセラーによる校内研修を実施し、生徒理解・生徒支援を深化させる学びとなった。	アクティブラーニング、観点別評価の研修を実施	来年度は計画的な授業公開を期待する。
		・教科を超えた授業公開・研究の実施。(延べ参加人数昨年度比 10 %増)	C		・計画を立てた授業公開を行えなかった。		
第1学年	基本的な生活習慣の確立・規範意識の向上・学力の定着	・欠席・遅刻への意識を高め、きっちりとした身なりができること。生徒との会話を増やし、信頼関係をより強化する。	B	B	・服装については服装指導を実施したことにより多少の成果はあったが、遅刻、欠席は終盤に向けて増えてしまった。生活リズムの構築が課題。	服装指導の徹底 生活リズムの構築	入学から卒業まで、生徒への丁寧な指導、保護者へのきめ細やかな連絡などが成果を上げている。
		・Brush up Time確認テスト平均点 70 点以上。	B				
第2学年	規範意識の向上を図る	・時間を守る指導を徹底する。授業への遅刻入室を減らす。 (平成27年度第1学年比 10%減)	C	C	・科目選択の教室移動が増え、適応するのに時間がかかった。そのため、服装の乱れを指導できなかった。教室移動による指導方法が課題である。	生徒の意識の指導 指導方法の見直し	成果を上げている。
		・絶えず身だしなみを意識する姿勢をもたせる。	C				
第3学年	生徒の進路希望の実現を図る	・進路ガイダンスや進路補習等の充実を図る。(進路行事への参加率昨年度比 10 %増、就職希望者全員への面接指導の実施。)	A	B	・ほぼすべての生徒に対して進路目標を達成させることができた。ただ、一部生徒の遅刻等の生活態度を改善しきれなかったことが悔やまれる。	日々の指導等の徹底 指導方法の見直し	通学時の生徒の表情が穏やかになったのが印象的である。
		・挨拶や言葉遣い等、社会人としての基礎力を身に付けさせる。	B				
総合	教育活動全体の充実	・保護者アンケートにおいて「子どもを二階堂高校に入学させてよかったと思う」のGPA3.6 以上。	B	B	・3.57 で、過去最高であった。	さらなるアップを	

※ 自己評価結果について …… A：十分である（よくできた） B：ほぼ十分である（ほぼできた） C：あまり十分でない（あまりできなかった） D：改善を要する（できなかった）